

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-225	高等学校	国語科	現代の国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
15・三省堂	現国 015-902	新 現代の国語 改訂版		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、中学校の国語学習の到達点を意識し、高等学校の国語学習が円滑にスタートできるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、

思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もっとも基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、話す・書くの領域における表現活動と、聞く・読むの領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解の学びに独自の学習の場を設定することで、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むの全ての領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。その際、これまでの内向的な学びの傾向への反省から、自分の意見や考えを積極的に発信することで、他者ととともにする協働的な活動を通して、開かれた個性の育成、広範な教養の育成を目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
日本語を大切に理由を考える	日本語を大切に理由を考えることをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	20～21
届く言葉、届かない言葉	「届く／届かない言葉」について考えを深めることをとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	22～27
ひとりではないということ	対人関係についての考えを述べた文章をとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	30～33
聞く力	相手の話を聞くことについて論じた文章をとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	34～36
情報はつくられる	誤った情報が流布する理由を考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	44～45
ひとまず、信じない	氾濫する情報に対する姿勢を論じた文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	47～51
情報を編集し、的確に発表する	パブリックスピーチをとおして、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	54～56
人が死なない防災	災害時における意識と行動を論じた文章をとおして、生命を尊び守っていく態度を養うことを目指した（第四号）。	66～72
減災学をつくる	災害予防への取り組み方を論じた文章をとおして、生命を尊び守っていく態度を養うことを目指した（第四号）。	74～78
評価した情報をまとめる	ハザードマップに関する報告をとおして、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	80～81
読むことのレッスン	日本語の特徴と情報の正確さとの関係性を述べた文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	94～97
水の東西	水の扱いを例に東西文化の違いを論じた文章とおして、伝統や文化に対する興味や関心を深めることを目指した（第五号）。	99～103
コインは円形か	角度によって硬貨の形が変化して見えることを例に認識の問題を論じた文章をとおして、文化や環境について多角的に考え、幅広い知識と教養を身に付けることを目指した（第一号）。	105～110

中身当てクイズ	「見る」という行為で見えるものが人によって異なることを述べた文章を読んで、文化や環境について多角的に考え、幅広い知識と教養を身に付けることを目指した（第一号）。	118～119
読み比べる —海ガメの無念	海洋汚染の現実を伝える文章を読み比べることをとおして、生命を尊び守っていく態度を養うことを目指した（第四号）。	121～123
構成や展開を意識して発表する	年齢や既知の事柄が異なる相手に対して説明する活動をとおして、文化や環境について多角的に考え、幅広い知識と教養を身に付けることを目指した（第一号）。	125～129
「まるごとのあなた」を	引用を用いた文章をとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	140～143
小さな哲学者	アフリカでの経験を通して得た知見を記した文章をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	145～151
情報を整理して伝える	経験を整理した文章を批評し合うことをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	153～157
最短ルートは店の中	A I の特性に着目した文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	164～166
記憶の解凍	対話を通じて白黒写真をカラー化する営みについて述べた文章をとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	168～173
多様な意見に触れる	多様な考えに触れ合う活動とおして、個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	175～181
ありのままの世界は見えない	見えるものが人によって異なることを述べた文章をとおして、文化や環境について多角的に考え、幅広い知識と教養を身に付けることを目指した（第一号）。	192～199
ものごとば	言語と認識の関係を論じた文章をとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	200～205
ブックガイド	「幅広い知識と教養」「真理の探求」「豊かな情操と道徳心」「勤労の精神」「生命や自然」「伝統と文化」「国際社会の平和」などを尊重し涵養するための読書活動を推進することを意図して、各単元9冊の図書をテーマ別に紹介した（第一号、第二号、第三号、第四号、第五号）。	40、62、90、114、 136、160、188、 218

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。
- ❖ 資料編の「思考の方法」などでは、文字による解説に加え、わかりやすい図解を用いることで内容を視覚的に捉えられるよう工夫しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-225	高等学校	国語科	現代の国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
15・三省堂	現国 015-902	新 現代の国語 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

主体的に学ぶ

① 自ら学ぶ力を育てる ―学習の見通しと振り返りを位置付け、「学びに向かう力」を育成する

- 単元の冒頭、及び単元を構成する教材や学習活動の冒頭に「つきたい力」として学習目標を提示し、教材の最後には学習を振り返る機会を設けています。学習活動をととして身につけた力を自分で診断・評価し、次の学習に生かすことができるような仕組みを目指しました。
- 学習指導要領に記載された指導事項をふまえて学習の系統化を図り、「基礎・基本」を段階的かつ体系的に、確実に習得できるようにしました。また、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」を軸として、単元の展開自体を丁寧で簡潔に学習のプロセスとして描き出しました。
- 学習指導要領で示された「言語活動の充実に資する国語の資質・能力、社会人として生活するために必要な国語の資質・能力の基礎」を育む基盤となる学習活動を教科書紙面上で構成し、学習活動をととして「他者と協働して課題を解決する力」「情報を見きわめる力」「知識を再構成する力」、それらを統合した「新たな価値を創造する力」が育成できるよう単元を構成しました。

見通し

ステップ1 目標の確認

目標を確かめて、学習の見通しをもちます。

ステップ2 学習課題に気づく

学習課題を整理・確認して、「情報の扱い方」の学習内容や学習の構成をつかみます。自学自習にも対応した課題を設定しています。

ステップ3 学習をつなぐ

文章や資料を詳しく読み、対話をととして情報の内容や構成表現の仕方についての理解を深めます。

ステップ4 学習を深め、考えを形成する

文章や資料を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深めたり、広げたりします。さまざまな表現活動を軸に、情報の発信者として、自覚的に自己の考えを表出します。

ステップ5 学びを振り返る

自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へ生かします。

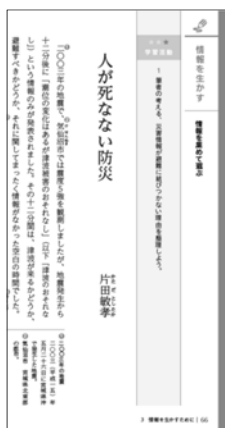
+α 学びを深める

ステップ1～5までの学習を活用して取り組むとともに、新たな資料を参照するなどして、学びをさらに広げたり、深めたりします。

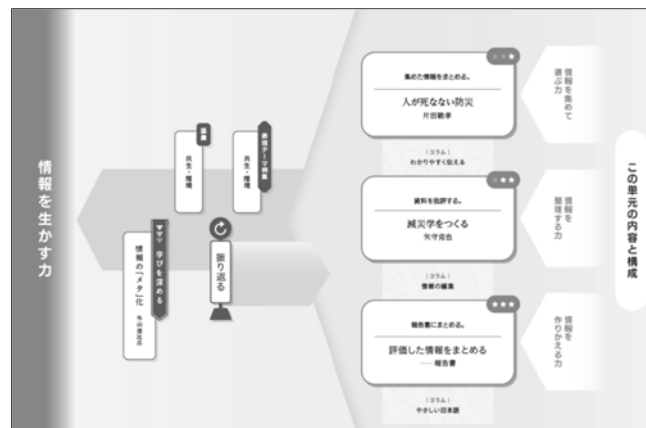
主体的・対話的で深い学び

振り返り

▲単元の基本的なつくり



▲教材冒頭に目標を明示



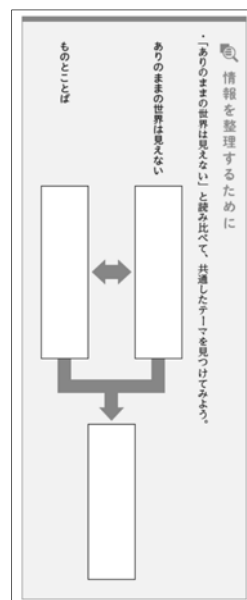
▲単元の構造とつきたい力を模式的に示した「この単元の内容と構成」



▲学習目標が明確な単元扉

②活用できる力を育てる 一学び方を学ぶ、言葉で考える力、語彙力を拡充する

- ・言葉による見方・考え方ははたらかせて、情報と情報との関係を捉えたり、考えを整理したり深めたりする方法として「思考の方法」を示しています。
- ・学習活動に応じて、「思考の方法」を活用するための手引きを「情報を整理するために」として配置し、単元や教材の学習活動の文脈の中で適切に活用できるようにしています。
- ・資料編には「『思考の方法』一覧」として、厳選した「思考の方法」を、図を用いてわかりやすく示しています。
- ・各教材には、理解できる語句と使える語句の量を増やすために、日常生活でよく使われる語を中心として、漢字の音訓の使い分けや、形や読みが似ていることで混同しやすい熟語を中心に示しています。
- ・各単元末では、現代社会について考える際に必要なさまざまなテーマに関連した「語彙」を取りあげ、語感を磨き、情報内容のより深い理解を目指すことができるよう構成しています。



▲「情報を整理するために」例

思考の方法	表現例
①順序立てる	まず……。次に……。最後に……。
②比較する	〇〇と□□を比べると……。
③分類する	全体を三つにグループ分けすると……。
④関連づける	〇〇と□□を関連づけると……。
⑤立場を変える・多角的に見る	〇〇の立場に立って考えると……。
⑥理由づける	どうしてそうなるかという……。
⑦具体化する	例えば〇〇だ……。
⑧抽象化する	つまり〇〇だ……。
⑨仮定する	もし、〇〇だったら、どうなるか……。

▲「『思考の方法』一覧」表＞

語彙

情報活用

【メディアミックス】複数のメディアの組み合わせによる宣伝などで、作品や商品への認知度や興味、関心を高める手法のこと。近年、子どもの読書傾向を分析する中で、ゲームやテレビドラマ、映画、漫画の原作本が多く読まれる傾向が指摘されている。子どもたちの「読書」の方法としてもメディアが一定の役割を果たしていると言えるだろう。

【電子書籍】インターネット上で流通するデジタルで記録された読み物の総称。電子ブック、デジタル書籍、デジタルブック、オンライン書籍とも呼ばれ、パソコンやスマートフォン、または専用の機械などで読むことができる。

【図書館】図書、雑誌、視聴覚資料、点字資料、録音資料等のメディアや情報資料を収集・保管し、利用者への提供等を行う施設もしくは機関のこと。なお、日本図書館協会が、一九五四年に採択した「図書館の自由に関する宣言」は、「第一 図書館は資料収集の自由を有する。／第二 図書館は資料提供の自由を有する。／第三 図書館は利用者の秘密を守る。／第四 図書館はすべての権限に反対する。」からなる。

▲単元末の「語彙」例

対話をとおして学ぶ

③協働する力を育てる 一対話と合意形成、そしてコミュニケーション能力の育成のために

- ・全単元を通じて、学習指導要領の「情報の扱い方に関する事項」を柱にして、「伝え合い」や「合意形成」、「説得」などをテーマとして現代の社会生活で必要となる言語能力に着目した構成を採用し、他者と協働していくことを目指した学習活動を充実させました。
- ・日常生活や現代社会における課題を取りあげ、対話をとおして考えたり、問題を解決したりする機会と場を充実させました。
- ・2単元「パブリックスピーチ」、5単元「プレゼンテーション」、7単元「パネルディスカッション」等の教材では、説明する際のコツや議論を取りまとめる際のコツを具体的に示しました。
- ・各単元には、実社会において必要になると考えられるさまざまな社会的な言語行為を軸として、学習活動を配置しています。

④「共生社会」の一翼を担う 一多様な価値観、ものの見方・考え方の拡充

- ・価値観が多様化するグローバル社会で求められる幅広い資質・能力の育成につながる題材を精選しました。

A

プレゼンテーションの例

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

4

5

1

2

3

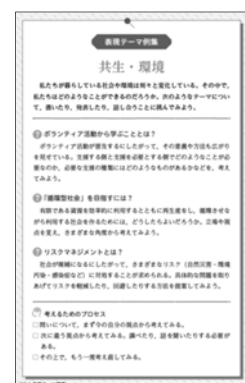
4

5

深く学ぶ

⑤自分の考えを形成する 一思考力・判断力・表現力

- ・日常生活や実社会における課題を取りあげ、対話をとおして考えたり問題解決したりする機会と場を充実させました。
- ・全ての教材において、自分の考えを形成する学習過程を重視しました。また、自分の考えをより豊かにし、深めていくことを目指し、単元の配置を工夫しています。また、各単元の末尾に「表現テーマ例集」を置き、単元で学んだことを広げて考えていくための、テーマを配置しました。
- ・8単元では、「自分の考えを書く」ことにとどまらず、書いたものを相互に批評し合い「よりよい書き方」のコツをまとめていく学習活動を設定しています。



▲「表現テーマ例集」例

⑥言葉と文化の担い手を育む 一多様な方法での伝統的な言語文化の継承・発展を目指して

- ・単元末尾の「ブックガイド」には、単なる「読書案内」ではなく、「表現」「教材」「単元のテーマに関わる本」という分類を基にして、多様なジャンルの読書に誘う紙面を掲載しました。
- ・7単元では、情報活用としてA Iにふれた文章に加え、『ぐうぜん、うたがう、読書のススメ』も採録し、本を含めた豊かな言語文化に触れることを目指しています。
- ・補充教材として使える「学びを深める」の教材群を掲載し、さまざまな文章に触れる機会を提供しています。

2.対照表

		図書の構成・内容 [教材名]	学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配当 時数
入門	世界を言葉と声で表す	言葉と声で表そう	●書イ 考えの形成 ◆言葉ア 言葉の働き	14～16	1
1 わかり合うために	情報を読み解く	日本語を大切に理由を考える	●読ア 構造と内容の把握 イ 精査・解釈、考えの形成、共有 [言語活動] ア 要約 イ 図表等の読解 ◆言葉ア 言葉の働き ウ 漢字 ◆情報ア 情報と情報との関係	20～21	8
	コラム	情報を読む 一統計資料の読み方・扱い方		21	
	情報を要約する	「届く言葉、届かない言葉」 鷲田清一		22～27	
	コラム	「要約」と「要旨」		28～29	
	情報を関連づけてまとめる	「ひとりではないということ」 星野源 「聞く力」 阿川佐和子		30～37	
	表現テーマ例集／語彙	コミュニケーション	◆言葉エ 語彙	38～39	適宜
2 確かな情報を伝えるために	情報を吟味する	情報はつくられる	●話聞ア・イ 話す [言語活動] ア スピーチ エ 発表 ◆言葉イ 話し言葉と書き言葉 エ 語彙 オ 文や文章 ◆情報エ 情報の吟味	44～45	7
	コラム	メディアとのつきあい方		46	
	情報と適切につきあう	「ひとまず、信じない」 押井守		47～51	
	コラム	引用について		52～53	
	情報を適切に編集する	情報を編集し、的確に発表する 一パブリックスピーチ		54～56	
	表現テーマ例集／語彙	メディア・リテラシー	◆言葉エ 語彙	57～58	適宜
	学びを深める	「情報と身体」 吉岡洋	◎学んだことを深める場を用意するとともに、読書に親しむ態度の育成を図っている。	59～63	

3 情報を生かすために	情報を集めて選ぶ	「人が死なない防災」 片田敏孝	●書ア 題材の設定、情報の収集、内容の検討 [言語活動] ウ 報告書 ◆言葉イ 話し言葉と書き言葉 エ 語彙 オ 文や文章 ◆情報エ 情報の吟味	66～72	9
	コラム	わかりやすく伝える		73	
	情報を整理する	「減災学をつくる」 矢守克也		74～78	
	コラム	情報の編集		79	
	情報を作りかえる	評価した情報をまとめる —報告書—		80～81	
	コラム	やさしい日本語		82	
	表現テーマ例集／語彙	共生・環境	◆言葉エ 語彙	83～84	適宜
	学びを深める	「情報の『メタ』化」 外山滋比古	◎学んだことを深める場を用意するとともに、読書に親しむ態度の育成を図っている。	85～89	
4 よりよい読み手になるために	情報を分析・評価する	「読むことのレッスン」 飯間浩明	●読イ 精査・解釈、考えの形成、共有 [言語活動] ア 内容や形式についての批評 ◆言葉ア 言葉の働き ウ 漢字 エ 語彙 オ 文や文章 カ 表現の技法 ◆情報イ 個別の情報と一般化された情報	94～97	8
	コラム	分けることの長所と短所		98	
	説明の方法を理解する	「水の東西」 山崎正和		99～103	
	コラム	問題・結論・理由		104	
	さまざまな視点から情報を捉える	「コインは円形か」 佐藤信夫		105～110	
	コラム	思う文章と考える文章		111	
	表現テーマ例集／語彙	文化	◆言葉エ 語彙	112～113	適宜
5 場に応じて伝えるために	根拠を明確にして考えを伝える	「中身当てクイズ」 佐藤雅彦	●話聞ウ 話す エ 聞く [言語活動] イ 報告や連絡、案内 エ 発表 ◆言葉イ 話し言葉と書き言葉 エ 語彙 オ 文や文章 カ 表現の技法 ◆情報ア 情報と情報との関係	116～117	7
	コラム	情報とコミュニケーション		118	
	表現の仕方に注意する	読み比べる —海ガメの無念—		119～121	
	コラム	論理か感情か —説明文と物語文—		122	
	相手を意識して自分の考えを伝える	構成や展開を意識して発表する —プレゼンテーション—		123～129	
	表現テーマ例集／語彙	科学技術	◆言葉エ 語彙	130～131	適宜
	学びを深める	「マルジャーナの知恵」 岩井克人	◎学んだことを深める場を用意するとともに、読書に親しむ態度の育成を図っている。	132～135	
6 説得力を高めるために	引用の目的やはたらきを理解する	「『まるごとのあなた』を」 伊藤亜紗	●書イ・ウ 構成の検討、考えの形成、記述 [言語活動] イ 紹介文 ◆言葉イ 話し言葉と書き言葉 ウ 漢字 エ 語彙 オ 文や文章 カ 表現の技法 ◆情報オ 引用の仕方や出典の示し方	140～143	9
	コラム	的確に表現するために		144	
	説明の仕方を考える	「小さな哲学者」 中村安希		145～151	
	コラム	個別から一般へ		152	
	情報を活用する	情報を整理して伝える —「説明文」—		153～157	
	表現テーマ例集／語彙	読書	◆言葉エ 語彙	158～159	適宜

7 考えを共有していくために	ある事実をもとに未知の事柄を推し量る	「最短ルートは店の中」 菅俊一	●話聞エ 聞く オ 話し合う [言語活動] ウ 話合い エ 発表 ◆言葉ア 言葉の働き イ 話し言葉と書き言葉 エ 語彙 オ 文や文章 カ 表現の技法 ◆情報ウ 推論の仕方 オ 引用の仕方や出典の示し方	164～166	7
	コラム	A I との向き合い方		167	
	情報を関係づけてまとめる	「記憶の解凍」 渡邊英徳		168～173	
	コラム	意思決定・合意形成のための会議		174	
	伝えることの意味や方法を理解する	多様な意見に触れる ーパネルディスカッション		175～181	
	表現テーマ例集／語彙	国際理解	◆言葉エ 語彙	182～183	適宜
	学びを深める	「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」 川上未映子	◎学んだことを深める場を用意するとともに、読書に親しむ態度の育成を図っている。	184～187	
8 よりよい書き手になるために	事例と主張の関係を整理する	「ありのままの世界は見えない」 田中真知 「ものごとことば」 鈴木孝夫	●書ア 題材の設定、情報の収集、内容の検討 エ 推敲、共有 [言語活動] ア 引用 ◆言葉ア 言葉の働き イ 話し言葉と書き言葉 エ 語彙 オ 文や文章 カ 表現の技法 ◆情報ウ 推論の仕方 情報エ 情報の吟味	192～205	9
	コラム	レトリック		206～207	
	自分なりの考えをまとめる	情報を活用して説得的に書く ー小論文		208～209	
	コラム	推敲		210	
	意図が十分に伝わる書き方を探る	書いた文章を批評し合う ー推敲		211	
	表現テーマ例集／語彙	生き方／認識・言語	◆言葉エ 語彙	212～213	適宜
	学びを深める	「真実はひとつじゃない」 森達也	◎学んだことを深める場を用意するとともに、読書に親しむ態度の育成を図っている。	214～217	
まとめ	世界を言葉で広げる	言葉で世界を豊かに	●書イ 考えの形成 ◆言葉ア 言葉の働き	220～222	2
	ブックガイド	表現・教材・単元のテーマにかかわる本	◆言語文化ア 読書	40、62、90、114、136、160、188、218	適宜
資料編	話し合いの方法		◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識を整理して示し、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度の育成を図っている。	224～225	適宜
	質問の仕方			226～227	
	文章の方法			228～231	
	情報の収集と発信			232～233	
	「思考の方法」一覧			234～237	
	論理的な文章の特徴			238～239	
	実用的な文章の特徴	ー報道の文章		240～241	
		ー手紙		242～243	
		ー記録		244～245	
		ー実務的な文章		246～249	
		ー宣伝・広告の文章		250～251	
				252～254	
	高等学校で学習する音訓のある常用漢字一覧				
	常用漢字表付表			255	